

年間指導計画および評価の計画作成にあたって

本資料のねらい

本資料は、令和7年度版 光村図書「中学書写」を使用するにあたって、年間指導計画および評価の計画を作成する際の参考資料となるように作成したものである。

令和7年度版 光村図書「中学書写」は、学習指導要領に基づき、その基本的なねらいと指導内容を十全に生かすべく作成されている。したがって、年間指導計画および評価の計画の作成にあたっては、それぞれの学校が新しい教科書を活用して、学習指導要領の基本的な考え方と目標をいかに各学校の実態に応じて実効性のあるものにするかという点に配慮されたい。

指導計画の作成について

指導計画の作成においては、教科書の構成や配列を十分に生かすことと、それを各学校・学級の実態に応じてアレンジすることとの両方が求められる。そのためには、教科書の各教材の特性を、想定されている指導内容・学習活動の面で捉え直し、その特性がより生きるように、自校の教育計画と合わせて指導計画を立てていくことが大切である。その際、例えば、次のような観点に立った計画が考えられるだろう。

- 既習の学習経験（小学校での学習を含む）や身につけた力を考慮して
- 学校独自の「総合的な学習の時間」との関連を図って
- 国語科国語や他教科との関連を図って
- 学校行事や地域の行事との関連を図って
- 年間を見通した「帯化」した扱いで

評価計画の作成について

本資料における評価項目は、学習指導要領の指導事項をもとにして作成した。こうした評価は、単に生徒の実現状況を見るのではなく、一人一人の生徒の成長のために生かされなければならない。計画的に評価活動を実施し、継続的に学習活動全体の習得状況を把握することと、生徒一人一人の学習状況を理解して個に応じた指導の資料として活用することが求められる。

配当時数について

学習指導要領には、各学年における国語科の配当時数と、そのうち書写に配当する時数の目安が定められている。令和7年度版「中学書写」教科書では、この時間数を踏まえて下記一覧表に示したような配当時数を設定している。なお、教材ごとの詳細な配当時数については、p.12「各学年の指導事項と授業時数の配当（1～3年）」を参照されたい。

学年 時数	1年	2年	3年
国語科総時数	140	140	105
「書写」の時数	20	20	10

本資料の構成要素

この資料において配列・構成した要素は、以下のとおりである。

1	2・3・4	5	6	7
月	単元名・教材名・指導目標	時数	学習活動	評価規準
4月	① 読みやすく書くための楷書 漢字を分解してみよう (教科書 P38-39) ◎点画の種類を確かめ、穂先の向きや筆圧などに注意して点画を書くことができる。[知 技(3)エ(ア)、(1)イ]	毛筆 2	1 教科書のイラストを見て、漢字は点や画の組み合わせでできていることを確かめる。 2 漢字を構成する点画の名前と筆使いのポイントを確かめる。 3 穂先の向きと筆圧に気をつけて、小学校で学習した点画を毛筆で書く。	【知】点画の種類を確かめ、穂先の向きや筆圧などに注意して点画を書いている。 【思】点画を書くなかで、穂先の向きや筆圧などを確かめている。 【態】進んで(①)穂先の向きや筆圧などを確かめ(③)、学習課題に沿って(②)点画を書こうとしている(④)。
5月				

- 1 月 ——— 学習する時期を月割りにして示している。
- 2 単元名 ——— 各単元の単元番号と題名を示している。
- 3 教材名 ——— 各教材の題名と教科書の該当ページを示している。国語教科書や他教科と連動できる教材は、冒頭に〔国語/総合/学校生活〕と示した。
- 4 指導目標 ——— 各教材の主たる学習場面において確実に身につけることが望まれる資質・能力を指導目標として◎で示した。また、主たる学習場面での学習を支えたり、身につける資質・能力を定着させたりするために望まれる学習活動を付随的な指導目標として○で示した。なお、関連する学習指導要領の指導事項を末尾の〔 〕内に記号で示した。
- 5 時数 ——— 教材ごとの学習に必要と考えられる所要時数を算用数字で示した。毛筆と硬筆に分けて示しているが、毛筆・硬筆を一体化させた指導の工夫を前提とし、学校・学級の実態に応じて展開されたい。なお、授業時数の1単位時間は50分を想定している。
- 6 学習活動 ——— 教材ごとに、生徒が実際に活動する場面を想定し、学習活動の流れを段階に分けて端的に示した。
- 7 評価規準 ——— 次の三つの観点について設定している。
- 【知】…書写の「知識・技能」の評価。
- 【思】…「思考・判断・表現」の評価。書写は「知識・技能」の観点で評価される指導事項であるが、慣例的に、書写の学習において行われる「思考・判断・表現」の学習活動を捉えて評価することを想定した。本書では〔 〕付きで示した。
- 【態】…「主体的に学習に取り組む態度」の評価。この観点に基づく評価では、以下の①～④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、組み合わせを工夫することが考えられる。本書では、各文言の後に(丸数字)で示した。
- ①粘り強さ
- ②自らの学習の調整
- ③他の2観点において重点とする内容
(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動
(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)